

2025年3月期 決算説明会資料

2025年5月13日

東証プライム：5262



NIPPON
HUME

日本ヒューム株式会社

これからも社会のために



おかげさまで100周年



目次

1. 会社概要
2. 2025年3月期業績説明
3. 2026年3月期業績予想
4. 「23-27計画R」における取り組み状況
5. その他トピックス

1

会社概要

日本ヒュームグループの事業概要

- 「社会基盤の整備に参加し、豊かな人間環境づくりに貢献する」を理念とした企業活動
- 連結子会社：9社、持分法適用関連会社：6社を含むグループで社会基盤の整備に貢献

下水道関連事業

- 雨水対策に用いられるヒューム管、セグメントなど
コンクリート製下水道関連製品の製造
- 下水道関連の工事（耐震化/管渠更生など）

<連結子会社>

- ・東邦ヒューム管株式会社
- ・日本ヒュームエンジニアリング株式会社



管更生（3Sセグメント工法）



合成鋼管

基礎事業

- コンクリートパイルの設計・製造・販売・施工の
ワンストップ体制
- コンクリート製品用型枠の販売
- コンクリート製品用資材の販売

<連結子会社>

- ・ニッポンヒュームインターナショナルリミテッド 他海外1社



パイル施工



パイル製造

プレキャスト事業

- PCウエル、ボックス、PGF・壁高欄などコンクリート
製造道路関連製品、その他プレキャストコンクリート
製品の製造



PCウエル



壁高欄



RCセグメント



ボックスカルバート

太陽光発電・不動産事業

- 不動産の賃貸、管理及び開発
- 発電および売電に関する事業
- 環境関連機器の販売及びメンテナンス

<連結子会社>

- ・株式会社環境改善計画
- ・株式会社ヒュームズ



太陽光発電所

鉄工・鉄筋

- 管路用・基礎用製品の型枠、及びその周辺部品

<連結子会社>

- ・株式会社鋼商
- ・技工曙株式会社
- ・株式会社エヌエイチ・フタバ

環境・衛生システム(コンサル)

- オゾン脱臭システム
- 環境（空気・水等）の浄化システム
- 環境・衛生コンサルティング

<連結子会社>

- ・株式会社環境改善計画

その他事業

- レンタル事業

2

2025年3月期業績説明

① 連結損益計算書

➤ 今年度は、営業利益及び資産売却益で計画を大幅に上回る

(単位：百万円、%)

	2024年3月期 実績		2025年3月期 実績				2025年3月期 期初計画		
	金額	構成比	金額	構成比	前期比		金額	実績比	
					増減額	増減率		増減額	増減率
売上高	33,732	100.0	37,064	100.0	+3,332	+9.9	37,000	+64	+0.2
営業利益	1,381	4.1	2,022	5.5	+640	+46.3	1,700	+322	+18.9
経常利益	2,391	7.1	3,049	8.2	+658	+27.5	2,600	+449	+17.3
当期純利益 (※)	1,912	5.7	3,045	8.2	+1,133	+59.2	2,000	+1,045	+52.3
減価償却費	700	-	754	-	+54	+7.8	-	-	-
設備投資	624	-	1,588	-	+964	+154.3	-	-	-

(※)受注案件の工期や進捗状況により、四半期ごとの前年同期比には変動が生じることがありますが、通期では前年を上回っております。

② 連結貸借対照表

(単位：百万円)	2024年3月 期末	2025年3月 期末
流動資産	32,556	27,099
(現金及び預金)	14,391	12,748
(棚卸資産)	4,212	4,262
固定資産	29,522	30,141
(有形固定資産)	9,636	9,859
(無形固定資産)	184	214
(投資その他の資産)	19,700	20,067
資産合計	62,079	57,240

(単位：百万円)	2024年3月 期末	2025年3月 期末
流動負債	15,656	9,661
(短期借入金)	1,448	830
固定負債	4,823	4,496
負債合計	20,479	14,157
株主資本	37,773	38,974
(自己株式)	△2,765	△3,495
純資産合計	41,599	43,083
負債・純資産合計	62,079	57,240

③ 2025年3月期業績総括（連結）

- 基礎事業では、関東・東北地区の大型案件の受注と地道な売価改善活動により増収増益
- 下水道関連事業は、道路案件やプレキャスト製品の出荷および工事の増加により増収増益

【売上高】 連結売上高 37,064百万円 前期比+3,332百万円 +9.9%

基礎事業	22,719百万円	+ 795百万円 + 3.6%	● 全体需要減少も各地で大型案件の受注により売上増
下水道関連事業	12,825百万円	+2,555百万円 + 24.9%	● 出荷及び工事の増加により増収
太陽光発電・不動産事業	1,425百万円	△ 45百万円 △ 3.1%	
その他事業	93百万円	+ 26百万円 + 38.7%	

【営業利益】 連結営業利益 2,022百万円 前期比+640百万円 +46.3%

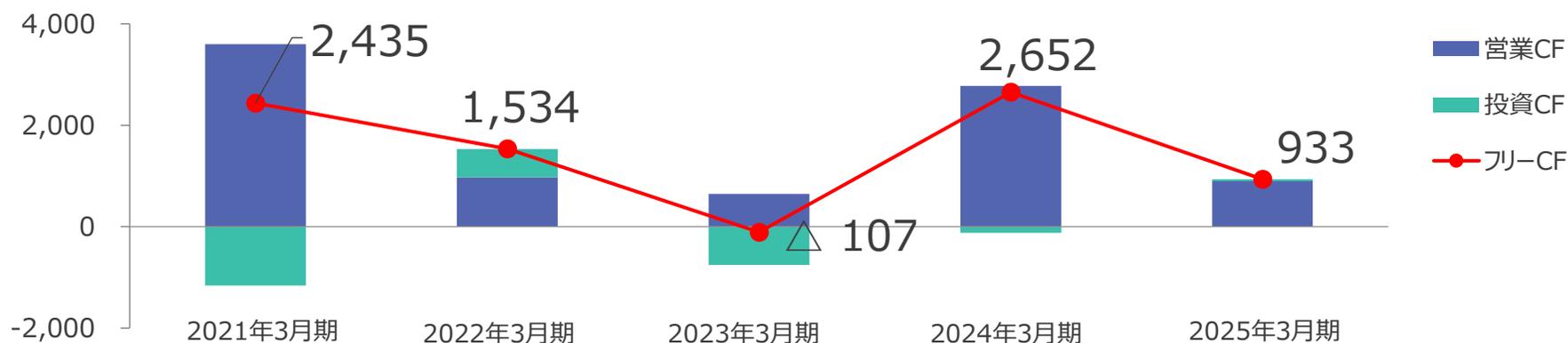
基礎事業	1,304百万円	+ 143百万円 + 12.4%	● 地道な売価改善が進んだことによる増益
下水道関連事業	1,935百万円	+ 663百万円 + 52.1%	● 出荷及び工事の増加により増益
太陽光発電・不動産事業	804百万円	△ 10百万円 △ 1.3%	
その他事業	77百万円	+ 23百万円 + 43.9%	

(注) 営業利益には、調整額△2,100百万円は含まれておりません。

④ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2024年3月期	2025年3月期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,774	(※) 897	△1,877
投資活動によるキャッシュ・フロー	△121	36	+158
財務活動によるキャッシュ・フロー	△790	△2,534	△1,744
現金及び現金同等物の期末残高	14,304	12,704	△1,599



(※)経済産業省の要請による買掛金の支払いサイト短縮を実施した影響により「営業活動によるキャッシュ・フロー」が大きく減少しました。

参考：2024年4月30日経済産業省HP
「約束手形の交付から満期日までの期間の短縮要請」

セグメント別業績推移

(単位：百万円)

2023年3月期	基礎事業	下水道関連事業	太陽光発電・不動産事業	その他事業	調整額	合計
売上高	19,925	10,464	1,478	53	△45	31,876
営業利益	322	1,680	807	41	△1,615	1,236
営業利益率	1.6%	16.1%	54.6%	76.6%	—	3.9%
2024年3月期						
売上高	21,957	10,269	1,510	67	△72	33,732
営業利益	1,161	1,272	815	53	△1,920	1,381
営業利益率	5.3%	12.4%	54.0%	79.2%	—	4.1%
2025年3月期						
売上高	22,729	12,825	1,464	93	△48	37,064
営業利益	1,304	1,935	804	77	△2,100	2,022
営業利益率	5.7%	15.1%	55.0%	82.2%	—	5.5%

3

2026年3月期業績予想

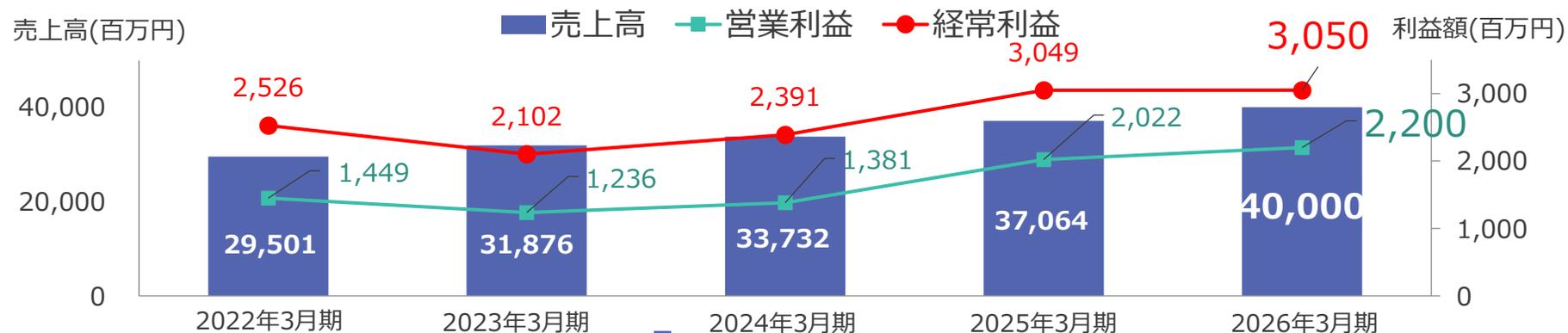
2026年3月期連結業績予想①

➤ 2025年3月期を上回り、「23-27計画R」目標を前倒しで達成する見通し

(単位：百万円、%)

	2025年3月期		2026年3月期予想			
	金額	構成比	金額	構成比	前期比	
					増減額	増減率
売上高	37,064	100.0	40,000	100.0	+2,935	+7.9
営業利益(※)	2,022	5.5	2,200	5.5	+178	+8.8
経常利益(※)	3,049	8.2	3,050	7.6	+0	+0
当期純利益(※)	3,045	8.2	2,270	5.7	△776	△25.5

(※)2026年3月期の当期純利益については、2025年3月期に資産売却による特別利益10億円が計上されていた反動により減益となっておりますが、その影響を除けば各利益区分において増益となっております。



2026年3月期連結業績予想②

- 基礎事業では、出荷・工事が堅調に推移する見通し
- 下水道関連事業は、高付加価値製品の発注等により増益の見通し

【売上高予想】 連結売上高 40,000百万円 前期比+2,935百万円 +7.9%

基礎事業	25,400百万円	+ 2,681百万円 + 11.8%	● 出荷・工事が堅調に推移する見込み
下水道関連事業	13,000百万円	+ 175百万円 + 1.4%	● 出荷量は概ね前期並みの見込み
太陽光発電・不動産事業	1,520百万円	+ 95百万円 + 6.7%	
その他事業	80百万円	△ 13百万円 △ 14.0%	

【営業利益予想】 連結営業利益 2,200百万円 前期比+178百万円 +8.8%

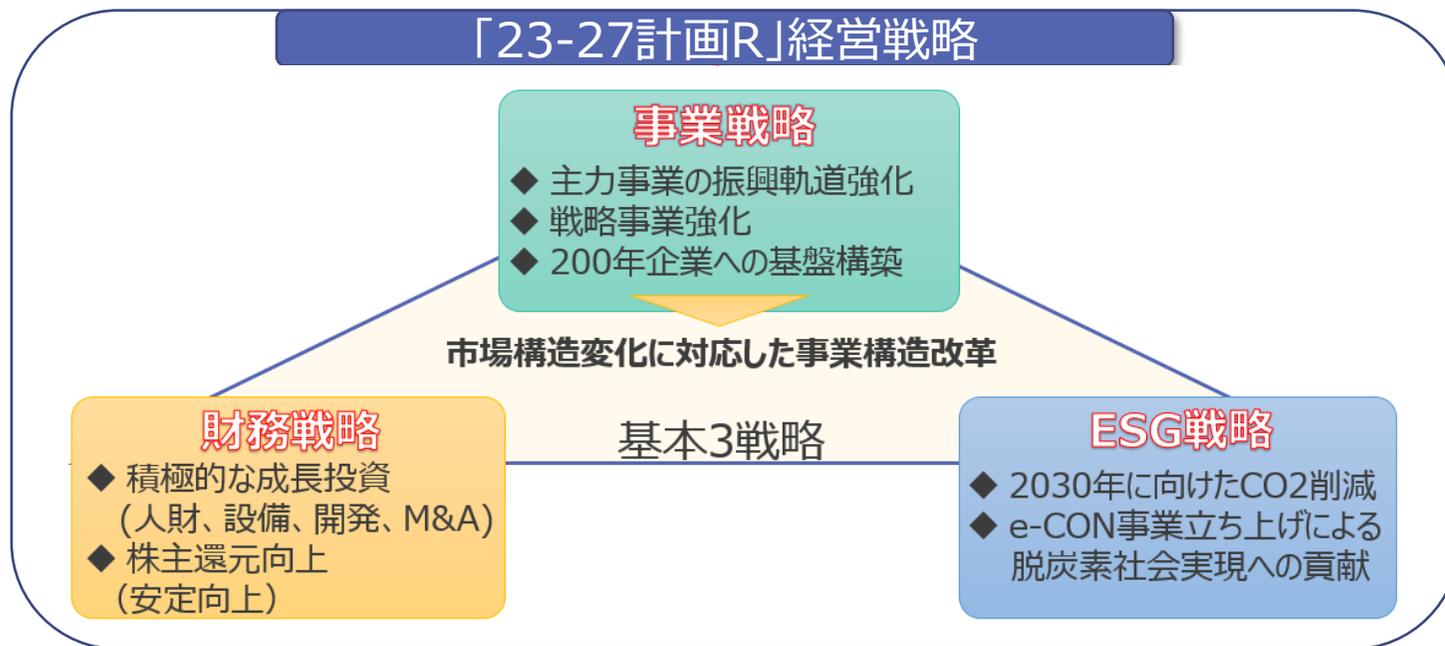
基礎事業	1,400百万円	+ 96百万円 + 7.4%	● 売上高の進捗と同様に推移する見込み
下水道関連事業	2,250百万円	+ 315百万円 + 16.3%	● 高付加価値製品の発注等により増収を見込む
太陽光発電・不動産事業	830百万円	+ 26百万円 + 3.2%	
その他事業	60百万円	△ 17百万円 △ 22.1%	

(注) 営業利益には、調整額△2,340百万円は含まれておりません。

4

「23-27計画R」における取り組み状況

経営戦略の進捗状況



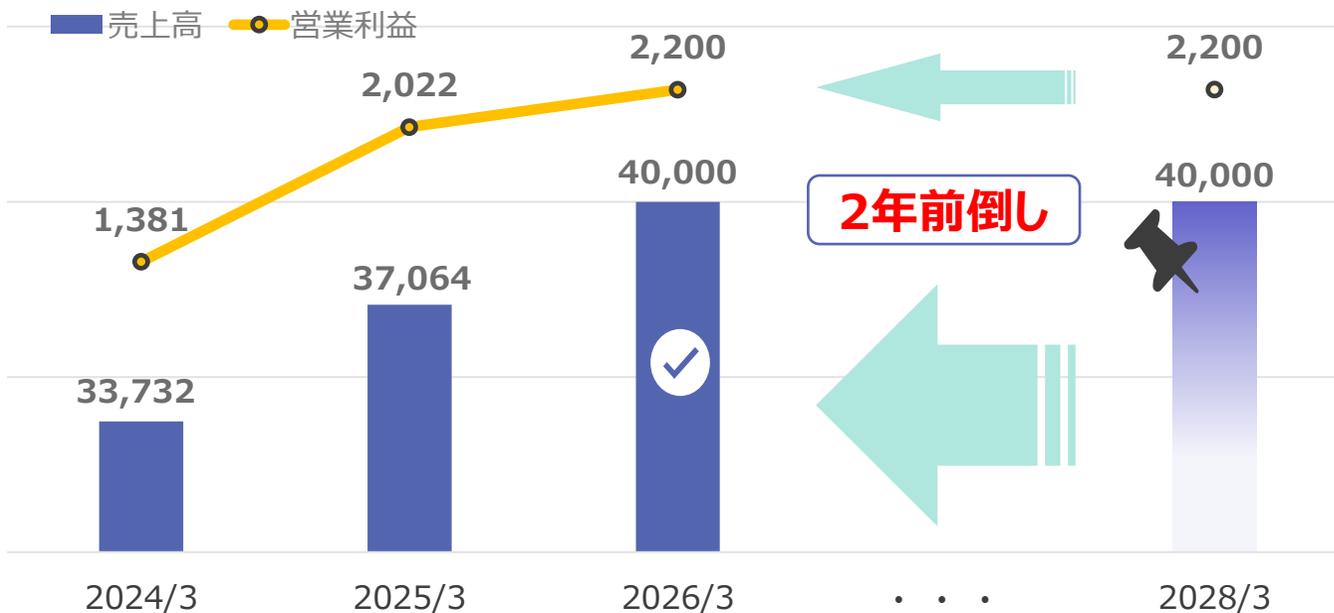
事業戦略	<ul style="list-style-type: none"> ● 主力事業の収益力を強化 ● プレキャスト製品での現場支援策が奏功し、売上拡大に寄与 ● 各部門で構造改革が着実に進行中
財務戦略	<ul style="list-style-type: none"> ● 鋼商社M&A、設備投資、人材・研究開発に積極投資 ● 総還元性向の向上： 23/3月期37.8%⇒24/3月期43.7%⇒25/3月期55.0%
ESG戦略	<ul style="list-style-type: none"> ● 低炭素型高機能コンクリート「e-CON」の販売開始と業界連携 ● ガスボイラー導入でCO₂排出を削減 2030年に向けたCO₂削減目標への取組み

損益の進捗状況

	2024年3月期実績	2025年3月期実績	2026年3月期計画	「23-27計画R」 2028年3月期計画
売上高	33,732百万円	37,064百万円	40,000百万円	40,000百万円
営業利益	1,381百万円	2,022百万円	2,200百万円	2,200百万円
経常利益	2,391百万円	3,049百万円	3,050百万円	3,050百万円
当期純利益	1,912百万円	3,045百万円	2,270百万円	2,270百万円

売上高(百万円)

45,000
40,000
35,000
30,000



利益額(百万円)

2,500
2,000
1,500
1,000
500
0

4-1

事業別戦略

事業別戦略の進捗

主力事業の振興軌道強化と戦略事業強化により成長基盤を構築

主力事業

戦略事業

「23-27計画R」施策

基礎事業

- 環境に優しい中掘工法の販売強化
- ICT施工(管理)推進による施工効率向上
- 摩擦杭対応力の強化

下水道事業

- トータルソリューションの増強
- 耐震化事業、メンテナンス事業の領域拡大
- シェアのダントツ化

プレキャスト事業

- PCウエルの販売強化
- 壁高欄拡販
- 設計営業力の強化

その他事業

成長事業への投資財源
⇒探索事業強化

2025/3月末時点での実績

- 新工法「CP-X工法」(低残土)認定取得(2025年1月販売開始)
- 「Pile ViMsys」地図機能(杭伏せ図)追加、国交省現場検証(2024年11月)
- 電子カメラ「ViMcam」による工事撮影の効率化
- 節杭・ハイブリッドローディング工法の展開

- 高耐圧推進管「JIP-PIPE」新継手の認定取得
- 低炭素型高機能コンクリート
 - ①「e-CON」技術審査証明取得
 - ②協会設立(2025年1月)
- 下水道の改築、調査、修繕のワンストップサービスの取組
- シェア：
22年20.9%→23年18.8%→24年度23.5%

- 予材が前期比50%増
- 3Dプリンター製品の出荷
 - ①自由造形
 - ②型枠レスプレキャスト製品(2024年12月)
- 壁高欄：
24年度出荷が前期比2倍
- 本社設計センターによる設計支援
23年度37件→24年度70件

- 鋼商社M&A
- 金属事業強化
 - プレキャスト事業強化

事業別戦略の進捗（部門別構造改革）

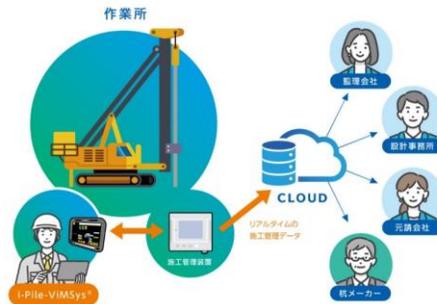
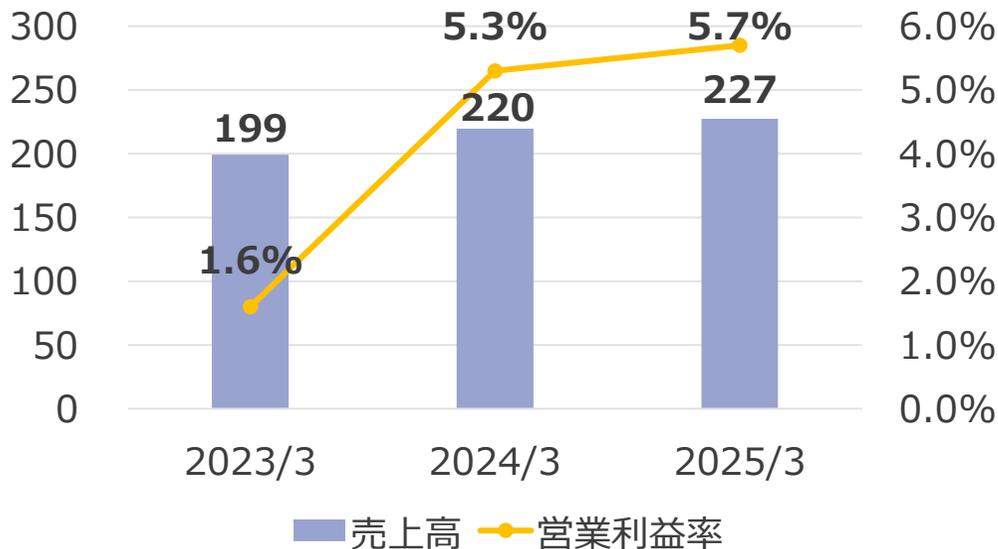
主力事業の振興軌道強化と戦略事業強化により成長基盤を構築

	「23-27計画R」施策	2024年3月期	2025年3月期
営業部門	<ul style="list-style-type: none"> ①組織営業体制強化 ②情報化武装の強化 ③マーケティング部門へ新化 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 顧客管理システム運用開始 ➢ 顧客対応力・予材管理強化 ➢ 顧客の声を活用した開発 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 顧客管理システムの定着 ➢ 営業マン育成と対応力向上（ロールプレイ） ➢ 予材量の大幅増
技術部門	<ul style="list-style-type: none"> ①事業開発体制強化 ②設計提案営業力強化 ③BIM/CIM推進 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ DX推進：設計システム開発 ➢ 設計支援37件 ➢ BIM/CIM推進 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ DX推進：杭、壁高欄設計（効率化） ➢ 設計支援37件→70件に増大 ➢ 「CP-X工法」(低残土)開発
生産部門	<ul style="list-style-type: none"> ①品質・安全強化 ②設備投資 ③間接業務IT化推進 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ DX推進：設備管理（効率化、予防保全） ➢ 社長安全パトロール実施 ➢ CN対応設備(ガスボイラー)導入 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ DX推進：品質管理（効率化、原価低減） ➢ 社長安全パトロール継続 ➢ ヒューム管・フレキスト設備更新
工事部門	<ul style="list-style-type: none"> ①品質・安全強化 ②工事体制の増強 ③ICT施工管理の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ DX推進:ViMCam信憑性認定 ➢ 社長安全パトロール実施 ➢ 採用強化、協力会社連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ DX推進:Pile ViMSys 地図機能追加（杭伏せ図） ➢ 社長安全パトロール継続 ➢ Pile ViMSys国交省実証実験
管理部門	<ul style="list-style-type: none"> ①人財戦略強化 ②IT・デジタル戦略強化 ③IR戦略強化 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ トップによる人財育成 ➢ IR面談増(4件→14件) ➢ 株主優待制度導入 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ トップによる人財育成継続 ➢ IR面談増(14件→51件) ➢ PBR1倍越え、株価最高値

基礎事業の進捗状況

単位：億円

売上高と営業利益率の推移



Pile-ViMSys (ICTツール)

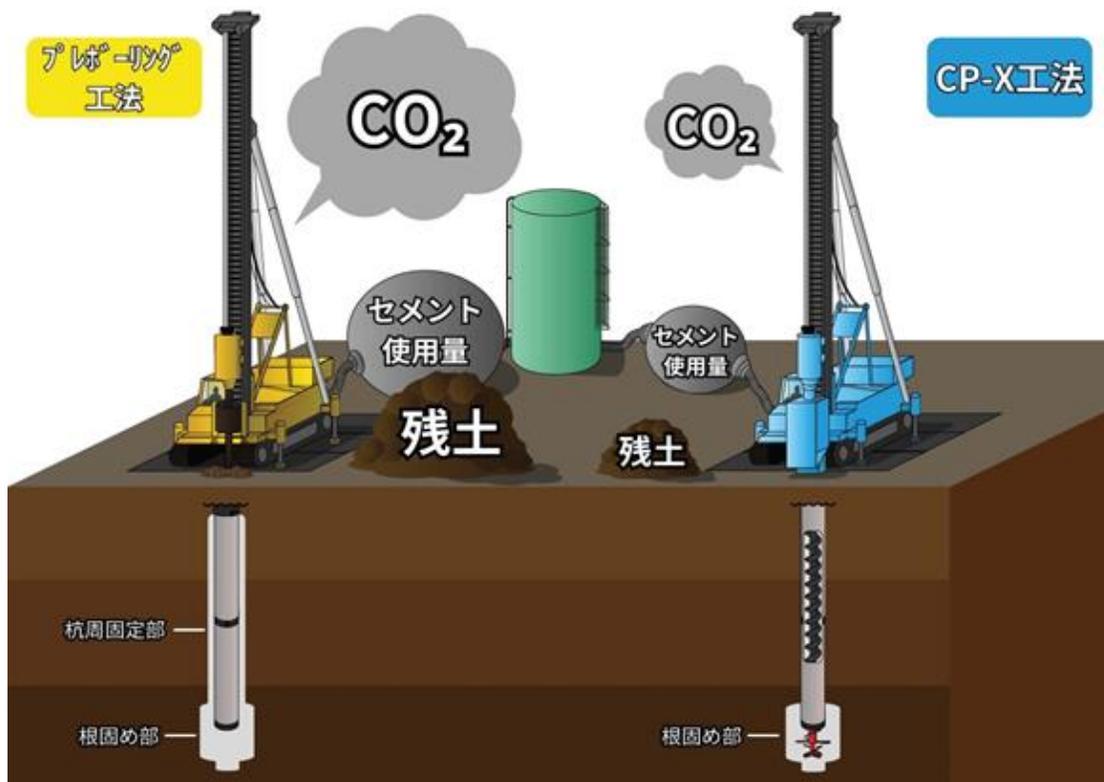


新中掘工法 (CP-X工法)

「23-27計画R」施策	2024年3月期実績	2025年3月期実績
営業利益向上	2024年3月期5.3%(前期比+3.7%)	2025年3月期5.7%(前期比+0.4%)
新工法の開発	中掘工法の開発に着手	新中掘工法「CP-X工法」(低残土) 販売開始
Pile-ViMSys改良	電子黒板「ViMCam」信憑性認証取得	Pile-ViMSys地図機能(杭伏図)追加
コスト増対策	価格転嫁の継続	

新中掘工法「CP-X工法」販売開始（2025年1月）

既製コンクリート杭高支持力中掘拡大根固め工法である「CP-X工法」を開発し、
（財）ベターリビングより技術評定を取得



CP-X工法の特徴

- ①環境性能
 - ・残土量約60～75%削減
 - ・Co2削減
- ②工期短縮
- ③トップクラスの鉛直支持力性能
- ④高い品質性能

新工法	既存工法	他社工法
65%	88%	100%

※CO2排出量当社調べ

基礎事業の進捗状況

ICT施工ツール「Pile-ViMSys®」の機能追加

- Pile-ViMSysに地図機能(杭伏図)を追加し操作性向上

【特性】

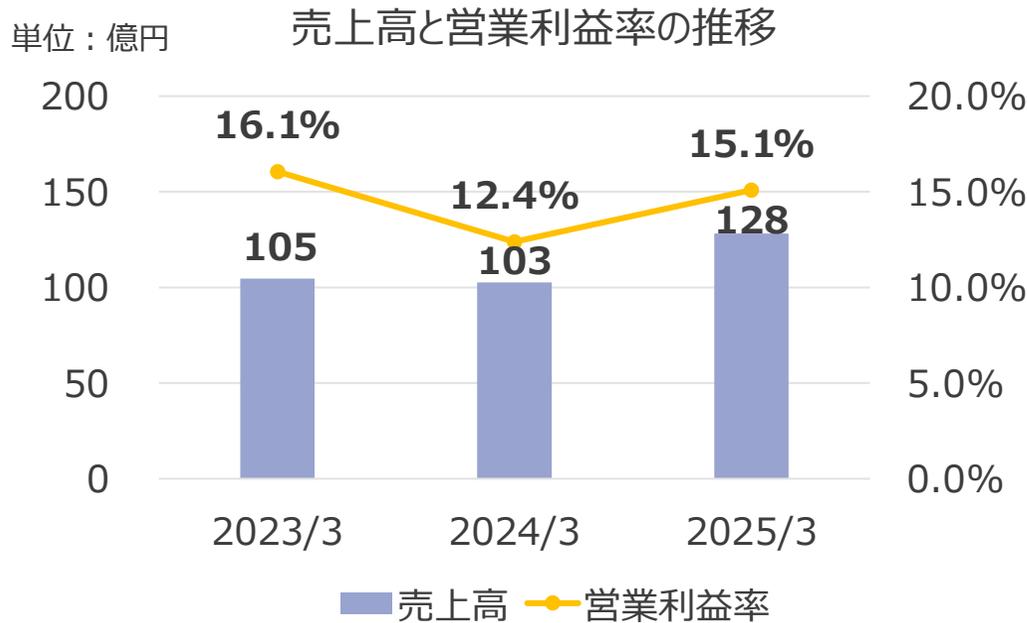
- ・杭伏図で杭の施工状況（施工前、施工中、施工完了）の確認
- ・見たい杭をタップして、施工状況をリアルタイムでの確認および承認
- ・工事関係者が工事現場に臨場する必要なく施工状況を把握

- 国土交通省が実施する「建設機械施工の自動化・遠隔化技術に係る現場検証」に選出



現場検証風景

下水道事業の進捗状況



管渠更生工事

「23-27計画R」施策	2024年3月期実績	2025年3月期実績
ヒューム管シェア向上	2024年3月期18.8%(前期比△1.1%)	2025年3月期23.5%(前期比+4.7%)
e-CONの事業化	e-CONの開発	技術審査証明取得・協会設立
インフラ老朽化対策	下水道長寿命化に向けた施策取組み (調査・更生・改築)	

下水道事業の進捗状況

e-CON認定取得、協会、販売開始

建設技術審査証明 取得

➤ 日本初、セメントと同等の性能が証明された「セメントレスコンクリート」

- ①成形性・強度・耐久性・長期変化でセメントと同等※
- ②耐硫酸性：通常コンクリートの10倍以上※
※今回の審査証明の対象です。

技術名称：セメントレスプレキャスト製品用コンクリート『e-CON』
建設技術審査証明（土木系材料・製品・技術、道路保全技術）
一般社団法人 土木研究センター-建技審証 第2402号

➤ その他の特徴

- ③耐塩害性：普通コンクリートの5倍（塩分拡散係数）
- ④CO2削減率：普通コンクリートに比べ約80%削減
- ⑤産業副産物利用率：主原料の90%にリサイクル材を使用



「e-CON」協会設立

- ①需要拡大を見据えて発足
- ②製品品質と技術水準を協会で底上げ、建設技術審査証明の対象範囲を拡大
- ③今後は全国展開の組織へ



e-CONで製造したヒューム管



e-CON使用したマンホール

下水道事業の進捗状況

下水道長寿命化に向けた施策

今年2月に発生した道路陥没事故を契機に、下水道長寿命化のニーズが高まっている。下水道インフラの新設需要に応えるだけでなく、長寿命化に向けた施策として
布設→点検調査→修繕・改築のワンストップサービスを重点強化してゆく

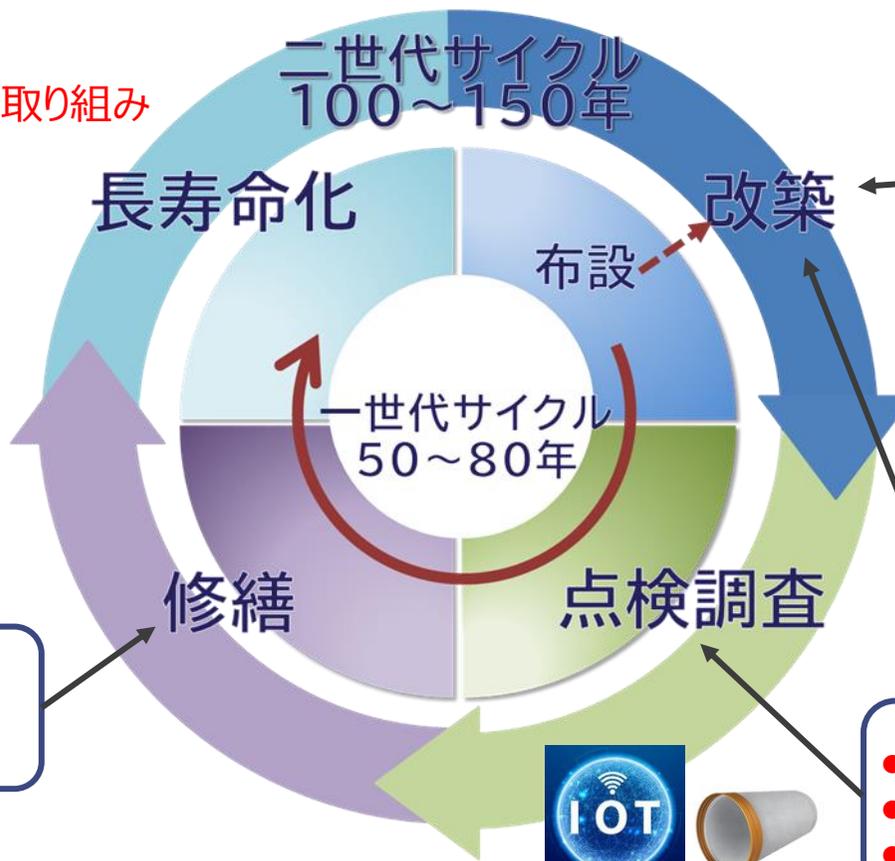
※赤字は新規に重点強化する取り組み



モルタル吹付工法

修繕

- 樹脂材による管路修繕
- **コンクリートによる管路修繕**



ビッコリート

「防菌効果による硫酸の発生抑制」



曝露試験

ビッコリートで製造したプレキャスト製品

e-CON

「耐硫酸、耐酸コンクリート」

- 高炉スラグ
- フライアッシュ
- シリカフェーム 等



材料構成 e-CONで製造したヒューム管

点検調査

- IoTセンサーによる無人化
- メーカーとしての知見を活かした分析強化
- 防災や点検に役立つ管路の調査機器



管路のIoT化

プレキャスト事業の進捗状況

設計ストックの拡大が収益向上に貢献

■ 収益拡大のポイント

- ・2025年3月末の予材量は前年同期比 58%増
- ・利益率も向上：設計提案力の向上による

【注力分野】

道路・治水・港湾・防衛の各分野で設計提案を強化し、予材を着実に確保



2026年度はさらに**20%増**を目指す



【2分割カルバート】



【プレキャスト基礎】

「23-27計画R」施策	2024年3月期実績	2025年3月期実績
3Dプリンティング技術	技術習得	①自由造形プレキャスト製品出荷 ②型枠レスプレキャスト製品出荷
壁高欄の拡販	売上2.6倍（前期比）	売上2.3倍（前期比）
PCウエルの拡販	関西大型再開発へ出荷	関東道路案件へ出荷
「e-CON」の拡販	海洋構造物で初出荷	継続して製造出荷

3Dプリンティングを活用したプレキャスト製品の製造技術

①自由造形型

- ・曲線造形等自由な形状のデザインが可能
- ・機能性に優れサイズも自由に調整する事が出来る

②型枠レスプレキャスト

- ・埋設型枠により鋼製型枠の製作期間短縮や型枠費の圧縮が可能
- ・工事現場での省人化

③自動化製造

- ・ロボットアームを活用した工場での自動化製造ラインの構築が可能



【自由造形型】



【埋設型枠】



【型枠レスプレキャスト】

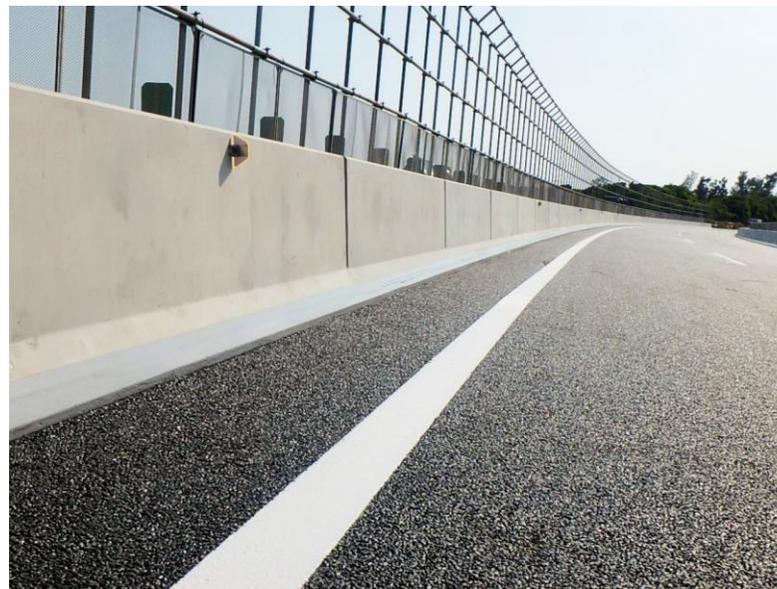
壁高欄の拡販

- ・関東・北海道で拡販に成功
- ・売上高は2年連続で大幅増
 - ▶2024年3月期：前期比2.6倍
 - ▶2025年3月期：前期比2.3倍

EMC壁高欄の特徴

- ・工期短縮：従来工法の約1/5の日数で施工可能
- ・高耐久性：製品・ボルトに耐食処理を施し長寿命化
- ・維持管理性：接合部ボルトの交換が容易な構造

【EMC壁高欄】



PCウェルの拡販が順調に進行

【関東地区道路案件向け】

■ 出荷動向

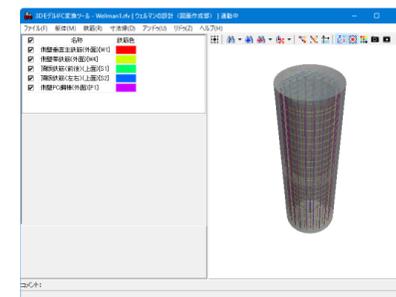
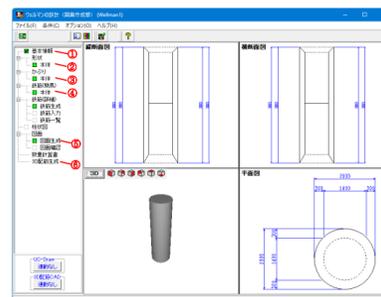
- ・ 2024年度：道路・再開発案件向けの出荷が好調
- ・ 2025年度：道路案件向け出荷の増加で、売上は前年超えの見通し



PCウェル工法設計ソフトを改良

■ 設計ソフトの改善効果

- ・ 作業時間を80%削減し大幅に効率向上
- ・ 全拠点に展開・運用中



4-2

財務戦略

財務戦略（資本政策）

- 株主優待制度拡充（2025年3月末より対象）
- 株価およびPBR推移

株主優待制度拡充

『日本ヒューム・プレミアム優待倶楽部』

当社株式の魅力をもっと高めるため2023年9月より実施している株主優待制度を拡充致しました。

・ポイント進呈対象株主様を拡大

400株以上保有の株主様まで拡大
(これまでは600株以上保有の株主様のみ)

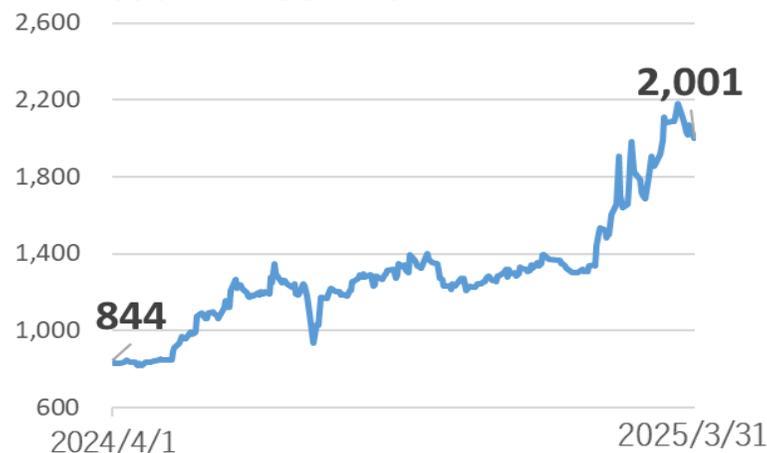
・株主様へのポイント増

2,000株以上を保有する株主様へのポイントが
20,000ポイントに増加

『日本ヒューム・プレミアム優待倶楽部』概要：
【URL】 <https://nipponhume.premiumyutaiclub.jp/>

株価およびPBR推移

株価は1年間で約**2.5倍**に上昇！



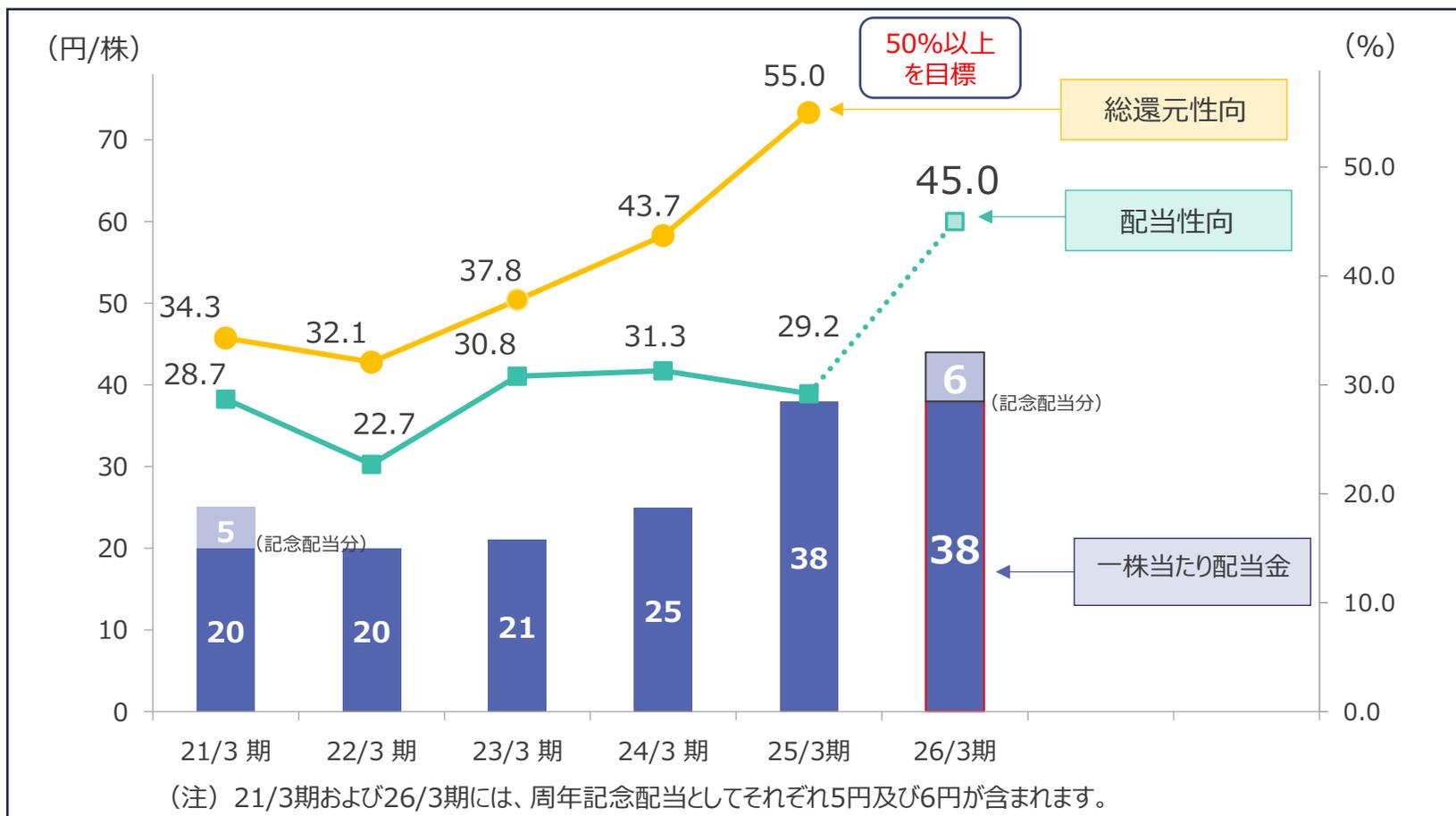
PBRも**1倍**に到達！



財務戦略（株主還元）

➤ 安定的株主還元の向上

- ✓ 100周年記念配当**6円増配**により**44円**を予定
⇒2025年12月 22円/株 2026年6月 22円/株
- ✓ 総還元性向50%以上を目標



資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について②

方針

総還元性向 = 50%以上

目標ROE = 8.0%

実績

総還元性向 = 55.0%

実績ROE = 7.3%

取り組み内容		2024年度実績
①全体	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 中期経営計画「23-27計画R」の着実な実行 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 2年目までの実績は計画を大幅に上回る ➢ 3年目で計画達成の見込み
②資産効率の向上	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 事業収益力向上加速/成長戦略の着実な実施 ➢ 資産有効活用/政策保有株式の縮減 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 経常利益額は2024年3月期24億円、2025年3月期30億円と着実に成長中 ➢ 政策保有株式、土地の売却を実施
③適切な資本構成	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 株主還元強化 ➢ 自己資本水準の適切な管理 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 総還元性向は2024年3月期43.7%、2025年3月期は55.0%と上昇
④株主資本コスト低減	<ul style="list-style-type: none"> ➢ IR活動強化 ➢ サステナビリティ経営推進 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ IR面談は、23年度14件、24年度51件と対話の機会が着実に増加 ➢ 健康経営、くるみん取得

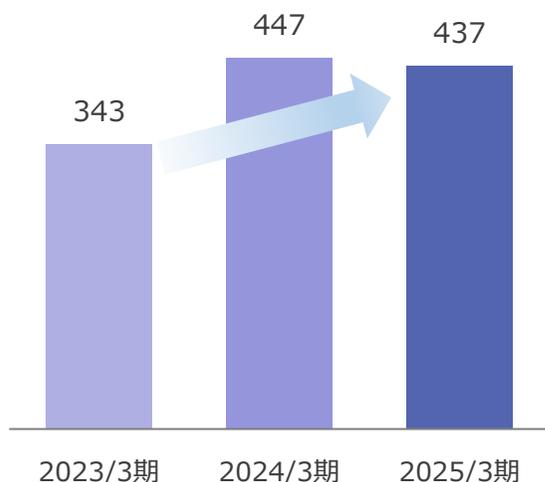
財務戦略（開発投資）

➤ 研究開発費・設備投資

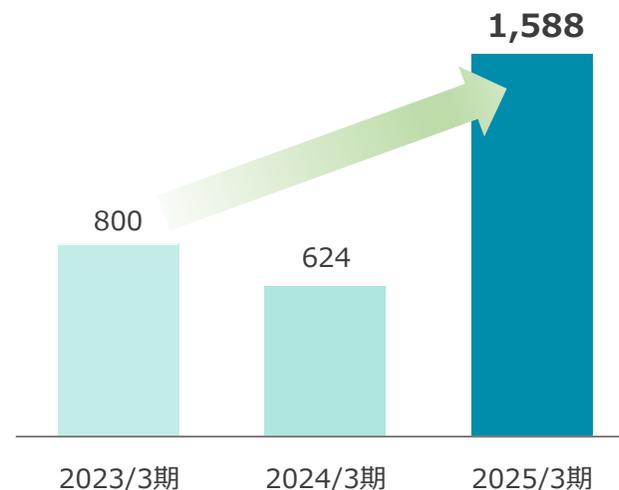
- 研究開発の強化とスピードアップに傾注
- 工場設備の増強による効率化、環境に配慮した設備投資

【2025年3月期実績】

研究開発費
437百万円



設備投資額
1,588百万円



4-3

ESG戦略

ESG戦略(E:環境)

- e-CON協会
- ガスボイラー導入

e-CON協会設立

2025年1月23日にe-CON協会を設立致しました

会員一同のノウハウを結集し、全国に低炭素型高機能コンクリート「e-CON®」を拡販し、社会基盤の整備に貢献致します。



ガスボイラー導入

環境対応とコスト削減を目的に、重油ボイラーをガスボイラーへ更新。

2030年度には、2013年度比でCO₂排出量58%削減を見込んでいます。



尼崎工場



三重工場

ESG戦略(S:社会)

- 健康経営2025取得
- くるみん認定2024取得

健康経営2025取得

「健康経営優良法人2025(大規模法人部門)」に

3年連続で認定！

経済産業省と日本健康会議が推進する制度において、優れた健康経営の実践が評価されました。

今後も、従業員の健康と幸福の向上を目指して、健康経営を推進していきます。



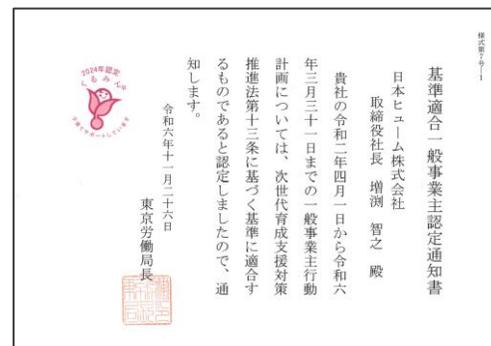
2025
健康経営優良法人
KENKO Investment for Health
大規模法人部門

くるみん認定2024取得

「くるみん認定」取得！（2024年11月26日）

厚生労働省より、子育て支援に積極的な企業として認定されました。

今後も、「人の和をはかり、常に従業員の幸福と生き甲斐を追及する」理念のもと、**誰もが安心して働ける職場づくり**を進めていきます。



5

その他トピックス

100周年記念ロゴマークを発表／公式Instagramを開設

これからも社会のために



おかげさまで100周年

ヒューム管とパイルに共通する「円」、プレキャスト製品を象徴する「四角（ブロック）」をモチーフに構成。さらに、永続性を示す縦の「∞(縦)」と、人が両手を広げている姿を重ね合わせ、インフラと人を支え続ける企業でありたいという思いを込めています。

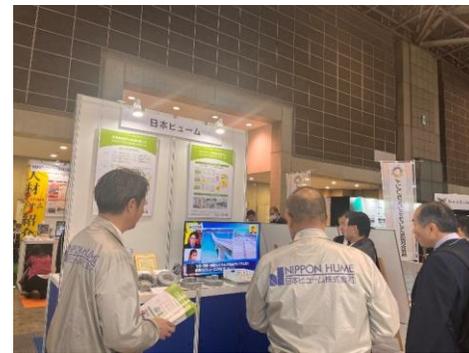


2024年9月に公式Instagramを開設いたしました。
社内イベントなどを中心に、当社の魅力をPRしております。

社会インフラテック2024 / 埼玉県建設資材県産品フェア2024に出展

循環型社会への転換期である今、貢献できる当社の技術・製品・工法をPRしました。

PR製品：バルブボックス、e-CON



【将来に関する記述等について】

本資料は、発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提としており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

今後、実際の業績は、金融市場の動向、経済の状況、競合の状況や地価の変動の他、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

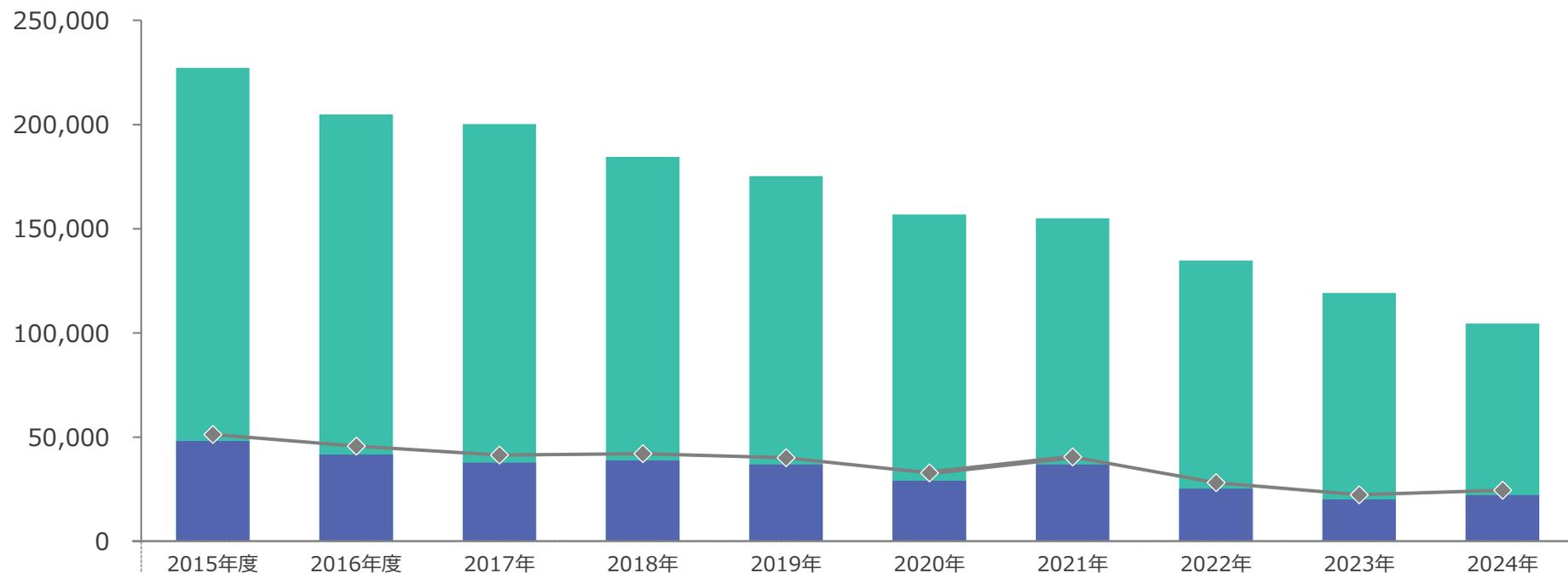
【数値表記について】

百万円未満は切り捨てで表示しております。そのため、一部合計数値が一致しないところがございます。

参考資料

業界データ（下水道関連事業）：ヒューム管需要推移

(単位：ton)

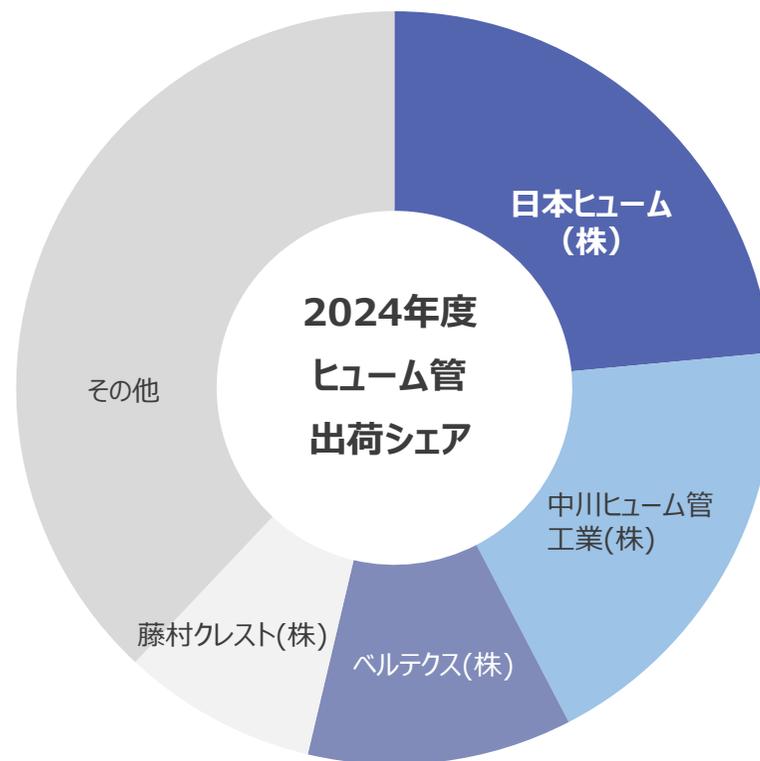


	2015年度	2016年度	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
■ 全国	227,203	204,896	200,138	184,450	175,235	156,840	154,962	134,820	119,132	104,556
■ 日本ヒューム	48,143	41,716	37,864	38,818	36,941	29,071	36,862	25,398	20,145	22,178
◆ 日本ヒュームGr	51,315	45,747	41,480	42,023	40,148	32,914	40,474	28,219	22,389	24,581
日本ヒュームGrシェア率	22.6%	22.3%	20.7%	22.8%	22.9%	21.0%	26.1%	20.9%	18.8%	23.5%

(出典：全国ヒューム管協会資料より算出)

業界データ（下水道関連事業）：2024年度ヒューム管出荷実績

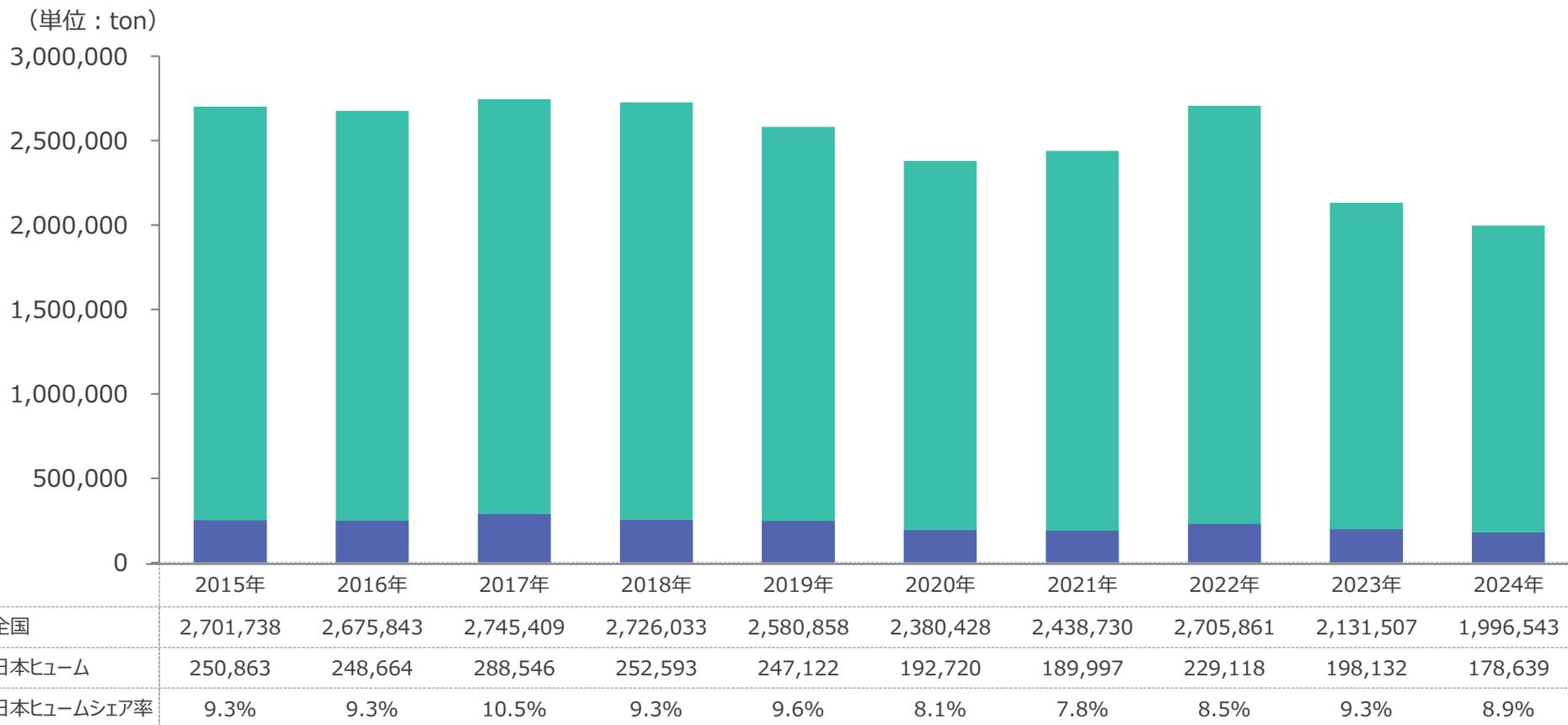
会社名	出荷量 (ton)	シェア	前年 同期比
1 日本ヒューム(株)	24,581	23.5%	+4.7%
2 中川ヒューム(株)	19,729	18.9%	-0.5%
3 ベルテクス(株)	11,816	11.3%	+0.4%
4 藤村クレスト(株)	8,717	8.3%	-4.1%
その他	39,713	38.0%	-0.5%
合計	104,556	-	-



※日本ヒューム(株)の数値は、持分法適用会社である
東京コンクリート工業(株)（株式40%保有）の数値を含みます

（出典：全国ヒューム管協会資料より算出）

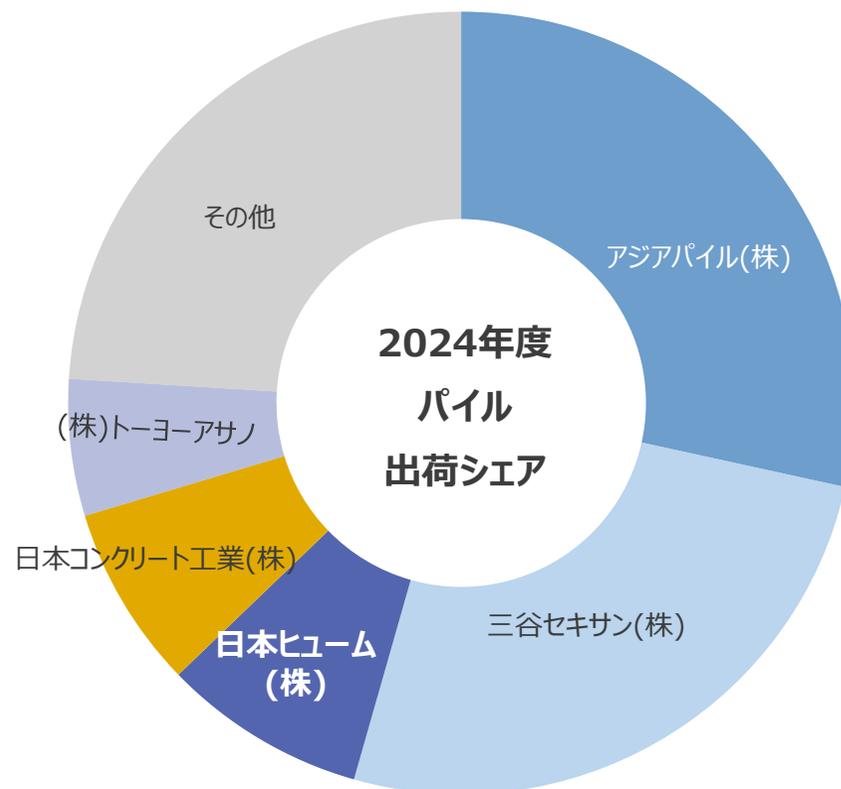
業界データ（基礎事業）：パイル需要推移



(出典：コンクリートパイル・ポール協会資料より算出)

業界データ（基礎事業）：2024年度パイル出荷実績

会社名	出荷量 (ton)	シェア	前年同期比
1 アジアパイル(株)	606,326	30.4%	+4.4%
2 三谷セキサン(株)	566,734	28.3%	-0.6%
3 日本ヒューム(株)	178,639	8.9%	-0.4%
4 日本コンクリート工業(株)	161,132	8.1%	-1.1%
5 (株)トーヨーアサノ	120,378	6.0%	-0.7%
6 前田製管(株)	62,873	3.2%	-1.7%
7 マナック(株)	58,142	2.9%	+0.4%
8 日本高圧コンクリート(株)	24,750	1.2%	-0.4%
その他	217,569	11.0%	+0.1%
合計	1,996,543	-	-



(出典：コンクリートパイル・ポール協会資料より算出)